

# 熊田大三青年の 南會探訪スケッチ集



7月25日若松驛頭にて

右 熊田(二瓶)大三

昭和6年7月25日から8月3日まで 10日間  
福島民報社企画「南会の神秘境を探る」抜粋

# 目 次

昭和6年	タイトル		続	頁
月日	主	副	号	数
7月25日	本社「南会探訪」班元気で今暁出発す	踏破七十里・旅程十日間の壮図		1
7月29日	湯の上より田島まで	7/25 途上点描 「湯の上近し」	①	2
7月30日	塔のへつり(スケッチのみ)	7/25 途上点描 「塔のへつり」	②	2
7月31日	駒止峠(スケッチのみ)	7/25 途上点描 「駒止峠」	③	3
8月2日	中山峠より湯の花へ	7/26 途上点描 「中山峠にて」	④	3
8月3日	小唄集	途上点描 タイトル絵	⑤	4
8月4日	湯の花より木賊へ 峠を越えて檜枝岐へ	7/27 途上点描 「木賊温泉」	⑥	4
8月5日	檜枝岐より沼上峠を越えて尾瀬沼へ	7/28 途上点描 「尾瀬のキャンプ」	⑦	5
		7/28 途上点描 「尾瀬へつぐ旅の一行」	⑦	5
		7/28 途上点描 「尾瀬沼と燧ヶ岳」	⑦	5
8月6日	長蔵小屋より燧ヶ嶽へ	7/29 途上点描 「燧ヶ岳山頂へ」	⑧	5
8月7日	三丈瀧を見て、燧ヶ嶽・裏村道を経て檜枝岐へ	7/30 途上点描 「三條ヶ瀧の壮観」	⑨	6
		途上点描 タイトル絵	⑨	6
8月8日	駒ヶ岳より大桃へ	7/31 途上点描 「その帰路」	⑩	6
		7/31 途上点描 「駒ヶ岳の全容」	⑩	6
8月9日	大桃より只見へ	8/1 途上点描 「三石神社」	⑪	7
		8/1 途上点描 「川籠岩」	⑪	7
		8/1 途上点描 「常盤橋」	⑪	7
8月10日	只見より柳津へ	途上点描 タイトル絵	⑫	8
		8/2 途上点描 「沼澤沼の風景」	⑫	8
8月13日	湯の上温泉附近	「啄木の歌を記す観音堂の岩洞」	⑬	8
8月14日	生活に根ざす傳説	「塔のへつりから見える只見線」	⑭	8
8月15日	湯の花温泉の民情・史蹟	「湯の花温泉」	⑮	9
		タイトル絵	⑮	9
8月17日	檜枝岐を語る【上】	「檜枝岐の高貴な碑」	①	9
8月18日	檜枝岐を語る【中】	「檜枝岐の農家」	②	10
		「石ころ畑」	②	10
8月19日	檜枝岐を語る【下】	タイトル絵「壁のない檜枝岐の住家」	③	11
		「古風な屋根づくり」	③	11
		「繭の自家乾燥場」	③	11
8月20日	尾瀬めぐり【1】	「尾瀬の湖と樹」	①	12
8月21日	尾瀬めぐり【2】	「尾瀬めぐり要圖」	②	12
8月22日	尾瀬めぐり【3】	タイトル絵「静かなる長蔵小屋」	③	13
		詩「尾瀬にうたふ」挿絵	③	13
8月25日	尾瀬めぐり【5】	タイトル絵「大下籐次郎の碑」	⑤	14
8月27日	會津駒ヶ嶽の花園	「駒の墓」	②	14
8月28日	南會と高倉宮以仁王(上)	「高倉宮以仁王潜行記附圖」	①	15
8月29日	南會と高倉宮以仁王(下)	「浅草山」	②	15
8月30日	水田創始の譽	「沼澤沼へ行く道より見下ろした村の一部」		16
8月31日	沼澤沼は唄ふ	「沼の仙人」		16
9月1日	沼澤沼の縁起・沼御前神社	タイトル絵「沼澤沼」		16
8月5日	旅を終えて	8/3 福島駅にて		17

# 本 南會探訪班

## 元氣で今曉出發す

踏破七十里・旅程十日間の壯圖

### 若松へ今朝六時半着

元氣必す目的を遂行して見せると誓つてゐた

### 出發に際して

小林 金次郎



眼の梢たかく髪を登りて、より高き木に攀がれ、知の世帯を放つものは、ただに錦子供たちのみならず多くの入りに際してもさうでありま

それ故にこの福島民報社の御企ては誠に興味深く且意義深きものであると信じます。それにつけても私どもの使命は重く、又この旅に際して健康より書を以て「説功を祈る」と敬愛された樹田木口先生の御言葉を思へば、實に感慨無量なるも

のがあります。私たちの行く方には、叫喚と車輪の音響があるとは異へ、巖多の山々、谷々が無限に續いて居ります。然し我々はほどとへ

### 南會探訪行速曲

小林 金次郎

路は遙かに七十里、けふは麻の峠の上、明日は嶺の麓を分けて、南の嶺へ我はゆく、知るや琥珀の山の空、知るや無限の蒼き嵐、水邊に響るる白瀑、南の嶺へ我はゆく、探し求めん山の窟、訪ひて誇らむ水の輝、希しき南の傳説、南の嶺へ我はゆく

北を極むともこの嶺ある仕事を完成しなればならぬと我へて居ります。幸ひにして親愛なる法鏡の應援により無事に仕事

を隠し送けるにたのびざるのを自ら断つて居ります。

### 熊田大三



私は去年から、あの南會探訪のやうに、旅を描いてゐた。あの、尾籠の大自然の中に、したがって、全身全霊を捧げ、無我の境に入つて、十分胸を、振ふ時が来た。私は空想です。誰に感謝してよいかわかりません。私は旅が、大好きです。そうして描く事です。私に描く事を奪つたら、生きてゐられない。描く事が唯一の楽しみです。大自然は大きな手を上げて、まつてゐます。私はなにもかも忘れて、愛します。今度の旅行で、私のスケッチが、みなさんに、満足をお與へるかに疑問です。しかし私は全我的努力を行込んで、描きます。

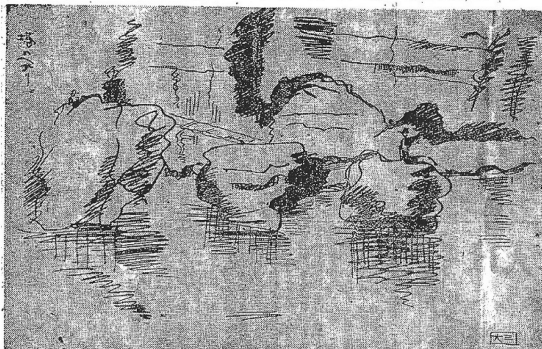
S.6.7.29 掲載 湯の上より田島まで 途上点描① 7/25

湯の上近し  
雷熊田大三

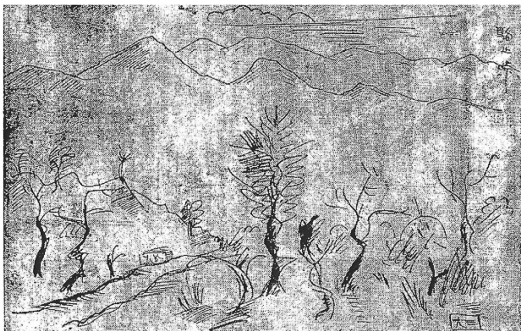


S.6.7.30 掲載 塔のへつり 途上点描② 7/25

南の會神の秘境を探る 途上の点描の2  
雷熊田大三



S.6.7.31 駒止峠 途上点描③ 7/25



3の描點の上途 駒止峠 南會の秘境界を採る 熊田大三 畫

S.6.8.2 中山峠より湯の花へ 途上点描④ 7/26

中山峠にて  
畫熊田大三

